

■ 3学期、充実させよう！

1月12日(金)から3学期がスタートしましたが、みなさん、ペースはつかめていますか？ 最も短い3学期が少しでも充実するように、気持ちを引き締めていきましょう。



1月26日(金)には、2年生を対象にリクルートの進路講演会が予定されていますが、学年を問わず、少しずつ「進路」に対しても意識を高めていくようにしましょう。今回のリクルートの講演会では「学校研究」に重点を置いて作業を進めてもらう予定です。春休み中にオープンキャンパスを開催する大学、短大、専門学校も多くありますので、できるだけ多く参加して情報をつかみ進路活動に活かしていけるようにしましょう。

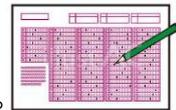
■ 3年生の学年末考査に向けて

1月29日(月)・30日(火)と、3年生の学年末考査が実施されます(※特進コース等、大学等の一般受験を控えている生徒を除く)。高校最後の定期考査になります。進路も決定し、気が緩んでいる人もいることと思いますが、「これまでのがんばりは何だったの？」という結果にならないように気をつけましょう。進学希望者にとっては、高校在学中の学習は進学先での基礎基本になりますので、最後の最後までしっかり準備して試験に臨んでほしいと思います。就職希望者も、内定企業に「残りの高校生活を少しでも充実させる」と誓っています。その言葉通りの結果となりますように。



■ 大学入学共通テストについて

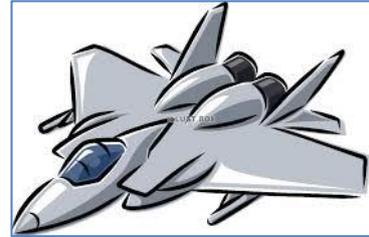
1月13日(土)・14日(日)に実施された大学入学共通テスト。本校でも約30名が受験してきました。学校としても、今後各教科で問題を分析して生徒諸君に対策方法などを提示していく予定です。十分に活かしてほしいと思います。1月15日付の読売新聞の記事では、「4年目となった今回の大学入学共通テストについて、代々木ゼミナールの担当者は『全体的に目立った難問や奇問はなかった。思考力や判断力、本質を問う共通テストらしさはありながらも、4年目ということで出題形式は落ち着いた印象だ』とみる。共通テストは一昨年と昨年は『難化』していた。昨年は4科目で、前身の大学入試センター試験を含めて過去最低点を更新。ベネッセと駿台予備学校のデータネット実行委員会担当者は、特に2年連続で過去最低点だった生物について『今年は部分点が取れる問題が複数あり、読み解きやすい出題になっている。平均点は昨年より上がる』と分析する」とありました。筆者の担当教科についても、難問・奇問の出題はなく至って良問という印象でした。



■合格体験記

今回の合格体験記は、防衛大学校に合格した松本唯さん、神奈川大学に合格した阿部愛さん、古河電池株式会社に内定している田子翔太さんです。先輩方の話にしっかり耳を傾けてぜひ参考にしてみてください。

【合格体験記】 松本唯さん（3年3組）
防衛大学校理工学専攻（推薦）



私は、防衛大学校理工学専攻に合格しました。防衛大学校を選んだ理由は2つあります。小さい頃から戦闘機のパイロットになりたかったということと、11年間続けている少林寺拳法も続けたいという気持ちがあり、どちらもできる環境が整っているところに魅力を感じたからです。

防衛大学校の受験は他の大学とは少し違いがあります。まず、理工学専攻を推薦で受験する場合、英語、数学、理科（※理科については、化学か物理のどちらかを選択）の3教科の試験があります。試験の時期は9月の中旬でしたが、どの教科も範囲が教科書の最後までと広いです。合格するためには、大学入学共通テストなどの受験に向けてよりも早く教科書学習をひと通り終わらせるように計画的に準備を進めていくよう心掛けました。

次に集団討論と個別面接についてです。集団討論は7人男女混合のグループで、全員に用紙が配られ、用紙の裏側にお題が書いてありました。それを見て、受験者だけでリーダー、書記、タイムキーパーを決めていき、私は自らタイムキーパーに立候補しました。話し合いをしながら、時間管理をしました。みんな頭がよく、最初はまったくついていけませんでしたが、ついていけないということで、私は焦っていましたが、知らない言葉も何となくニュアンスで理解して話し合いに参加していました。自分なりの考えを持ってしっかりと発言することが大事になると思います。

個別面接は前3人、後ろ1人に囲まれて少し緊張しましたが、会話をする感じで硬くならず、終始笑顔で臨めました。質問に対しては回答に詰まることなくすぐに返事をすることができました。推薦で受験する場合には、この集団討論と個別面接に重きを置いているようですので、しっかり対策をして臨むようにしましょう。

最後は何と言っても身体検査です。日常的に適度に運動をして、早寝早起きをして、バランスの良い食事をとることが大切です。以上の点に気をつけていれば大丈夫だと思います。

私は自分にストレスを与えないのが一番だと思います。周りに何と言われようが受験するのは自分です。自分のスタイルを確立してがんばってください。

【合格体験記】 阿部愛さん（3年3組）
神奈川大学経営学部国際経営学科（総合型（音楽推薦））

私は神奈川大学の経営学部を音楽推薦で合格したのですが、音楽推薦は普通の総合型と違い2次試験まであります。まず1次試験ですが、楽器での演奏と顧問の先生との面接がありました。おもに聞かれることは、今までなんの楽器を吹いてきたか、そして入学した場合、住む場所はどのようにするのかなどです。もちろん、どのような目的で神奈川大学を受験したのかも聞かれるので、きちんとした対策を取らなければなりません。そして2次試験は、小論文とグループ面接です。小論文は学部によって違いますが、私は経営学部だったので、リーダーシップを問われる論文でした。制限時間は60分です。落ち着いてやれば間に合うので、そんなに緊張しなくても大丈夫です。面接は先生2人と受験生3人で行いました。難しい質問はされません。自分の言葉で素直に答えれば大丈夫です。他の大学も同じだと思いますが、事前に準備をすることが大切です。そして、笑顔で受け答えすると印象が良いと思います。

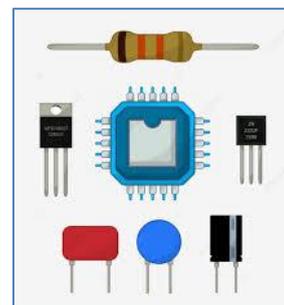


音楽推薦で受ける場合、曲選びはとても重要です。私は自由曲でアディオス・ノニーノという曲を演奏しました。難易度は5段階中4なのですが、他の受験生も難しい曲を演奏していました。ですから曲選びでは、難易度3~5がベストだと思います。課題曲はとにかく丁寧に演奏しましょう。音の長さや強弱を意識して演奏すれば大丈夫だと思います。

とにかく受験は事前の準備に重点を置いて、本番は落ち着いて取り組んでください。

【合格体験記】 田子翔太さん（3年2組）
古河電池株式会社内定

私は、小学生の時から電子部品関係の仕事に携わりたいと考えていました。古河電池株式会社に職場見学に行った際に、私の挨拶に笑顔で挨拶を返してくださるなど社内の雰囲気がよく、福利厚生もしっかりしているのでこの会社を受験したいと強く思うようになり志望しました。



試験内容は、一般常識と面接、小論文、グループワークがありました。私は人と話すのが苦手な面接を特に集中的にやっていました。練習相手をしてくれた友達や先生には感謝しかありません。本番は緊張しましたが、自分の思っていることを素直に、そして笑顔で面接官に伝えることができました。

内定をいただくためには定期考査でよい成績を収めておくことが大切ですが、学校行事や部活動に一生懸命取り組むことも大切だと思いました。球技大会や文化祭などに積極的に参加して経験を積むこと、部活動がんばれば話せる内容が増え、面接でも良い印象を与えることができます。何より高校生活の思い出が一番記憶に残ると思うので、一日一日学校生活を楽しんで送ってください。

■能登半島大地震を受けて



年が明けて、「今年は良い1年にしよう！」と決意を新たにした生徒諸君も多かったのではないかと思います。昨年5月に新型コロナウイルスについては5類に移行し、以来、少しずつ平常を取り戻してきました。そんな中で迎えた新年に対する期待感は大きいものがあったことでしょう。

ところが、大変な惨事が起きてしまいました。元日の夕方、筆者が実家でテレビを見ていたところ、緊急地震速報が流れました。みなさんもそうだと思いますが、筆者もあの音を聞くだけでストレスを感じ、大地震に備えなければならないという緊張感に襲われます。緊急地震速報が流れてもそこまで大きな地震ではないケースもありますが、NHKの報道を見ていて、能登半島で震度7を観測し、すぐに予想される津波の大きさや到達時刻なども示され、只事ではないと感じました。その後も、繰り返し緊急地震速報が流れ、震度4以上の地震が何度も観測されるなど、東日本大震災のときの恐怖を思い出しました。

NHKの女性アナウンサーが早く逃げるように繰り返し大きな声で伝えていましたが、寒い中、逃げるのも大変だろうと想像しました。震度6弱以上の地震ともなると、道路に亀裂が走ることも考えられ、そう簡単ではないだろうなと感じました。翌日以降、テレビで報道される映像を見て、一概には言えないかもしれませんが、道路の状況などは東日本大震災を上回る酷い状況に見えました。古い家屋が多く、特に1階部分がつぶれてしまったの圧死が多かったとの新聞報道も目にしました。

東日本大震災が発生したときには、筆者は中学2年生の授業をしていました。当時中学校の教室は東日本国際大学のキャンパス内の鎌田饗窓会館6階にあり、あと4分ほどで授業が終わるというときに、突然、それまでに感じたことのないような長く大きな揺れに襲われました。あまりの揺れの大きさに筆者は教卓にしがみつきながら、必死に生徒たちに机の下に潜って頭を隠すように繰り返し大声をあげていました。一旦収まった後、当時東日本国際大学の中心部にあったグラウンドに避難しました。その後、外にいても繰り返し余震を感じました。本校の中学生は、当時も遠方から通学している生徒が多くいました。保護者が学校まで迎えに来たくても道路に亀裂が走り、あちこちで渋滞していてその日のうちに迎えに来られないご家庭が多数ありました。そこで、筆者も含め、中学校の先生方が一晩生徒たちと過ごしました。大学の建物内だと天井が落ちる可能性があり危険との判断で、マイクロバスを出していただき、そこで励まし合って過ごしました。

翌日、学校に行って、書類や教科書等が散乱している職員室の惨状に言葉を失いましたし、自宅も思っていたほどではありませんでしたが、本棚から多数の本が落ちていたりして酷い状況でした。電気についてはあまり大変だった記憶はありませんが、断水が1か月近く続き、苦労した覚えがあります。

今回の能登半島の大地震の場合は停電と断水が続き、道路の寸断等でなかなか支援物資が届きにくい状況にあり、さらに寒さや雪などの問題も重なって過酷な状況にあります。私たちも募金などできる範囲で支援をし、寄り添っていけたらと思っています。

文責：清水聖（進路指導主事）